

■ みなと講演会(紋別)開催のご報告

NPO 法人マリンネットワーク理事長 古屋温美

1. 講演会

みなとオアシス「もんべつ」は、平成26年1月24日、道内で8番目のみなとオアシスとして登録され、流水観光砕氷船「ガリンコ号Ⅱ」の発着場でもある「海洋交流館」を中心とし、周辺に位置する世界初の氷海展望塔「オホーツクタワー」や親水防波堤である第3防波堤「クリオネプロムナード」等のみなとの資産を活用した交流拠点づくりが推進されています。

一方、紋別では、これまで流水観光を核として観光振興に取り組んでいるものの、さらなる観光振興のためには、みなとオアシスエリア及び中心市街地等がより一層連携し、紋別港・紋別地域が持つ地域資源を最大限活用しつつ、みなとオアシス「もんべつ」の魅力向上を図っていく必要があり、今回の講演会は、みなとオアシス「もんべつ」のさらなる魅力向上に向けて、平成26年10月25日(土)16:00～18:35、紋別市ホテルオホーツクパレスにて、約250名にお集まり頂き開催されました。なお、講演会の主催は、みなとオアシス「もんべつ」運営協議会、一般社団法人寒地港湾技術研究センター、NPO法人マリンネットワークです。

(1) 特別講演「オホーツクから北海道を新に」

衆議院議員 武部 新氏

以下に発言要旨をまとめました。

- ・それぞれの地域にはそれぞれの自然に合った生活がある。
- ・みなとを中心としたまちづくりは、新たな段階に入っており、みなとオアシスはそのひとつである。海の近くに住んでいる我々には重要なことである。
- ・増田レポート(増田寛也(元総務相・岩手県知事)が日本創世会議・人口減少問題検討分科会の議長となつてとりまとめた報告)によると日本の人口減少対策は待ったなしの状況であり、定住化を進めていかなければならない。雇用をさせる産業の推進、住む環境(病院、教育)を整え若い世代が安心して暮らせる社会が必要。
- ・交流人口を増やす方法として、外国人の受入体制を考える。レンタカーや自転車で回る台湾外国人が増加している。交通標識を多言語化していく必要。
- ・台湾では「北海道」というブランド力があり、それ

を効果的に使うことが重要。

- ・サハリンは北海道に魅力を感じており、紋別を特別区にしてロシア観光客を受け入れるなど、地元から大きな提案をしたらよい。
- ・紋別のように港湾も空港もあるまちは少ない。地方都市のグローバル化が重要。オホーツク海にはメタンハイドレードがあるとされており、エネルギー供給基地となる可能性がある。
- ・まちを元気にするためには人材が最も重要であり、リーダーを育成していかなければならない。



衆議院議員 武部 新氏

(2) 講演「みなとまちの賑わい」

国土交通省港湾局産業港湾課長 高田 昌行氏

「ないものねだり」から「あるもの探し」へというメッセージを盛り込みながら、海からアプローチした紋別港のポテンシャルについて触れつつ、高田課長ご自身がこれまで見てこられた全国のみなとオアシスの事例紹介、クルーズ100万人時代に向けたクルーズ振興に関する紹介等をいただきました。最後に、みなとまちは今後、地域資源やみなとの既存ストックを活用し、市民の参画と行政や民間企業等との連携をすすめ、雇



国土交通省港湾局産業港湾課長 高田氏